

第24回 鳥類標識検討会(平成20年度) 議事録

日 時: 2009年3月24日(10:30~12:10)

場 所: 東京都渋谷区南平台8-14 山階鳥類研究所 東京分室

出席者: 検討委員 (8名中 6名参加)

上田恵介・川路則友・古南幸弘・蓮尾純子・花輪伸一・廣居忠量

環境省 野生生物課: 星野一昭・西山理行・西野雄一

生物多様性センター: 鳥居敏男・吉田祥子・鈴木真野

山階鳥類研究所・事務局

山岸哲・尾崎清明・米田重玄・佐藤文男・吉安京子

- 議題:
- 1 標識調査事業の成果報告
 - 2 鳥類標識データの利用規定
 - 3 マニュアルの改訂
 - 4 今後の課題・調査項目
 - 5 その他

<議題1 標識調査事業の成果報告>

(事務局より、当年度鳥類標識事業の成果を説明)

〔検討委員(花輪)〕ズグロカモメは北九州のものはあまり動かないが、有明のものは移動する。

〔事務局〕有明は調査の時期が渡りの時期だった。

〔検討委員(花輪)〕サギの観察報告者は今までと同じ人か。

〔事務局〕一般の人が性能の良いスコープを入手して観察撮影し報告してくる。

〔検討委員(上田)〕観察撮影報告をバードウォッチングの新分野として全国的に普及できれば、標識事業の啓発にも役立つのではないか。

〔検討委員(蓮尾)〕バンディングは1羽を記録するという性格がある。一般へ標識調査の意義を浸透させるには、統計処理するだけでなく、1羽1羽の興味深い事例をあげ広報する等が大事。

〔検討委員(上田)〕バンダーは面白い事例をたくさん観察しているので、上手く広報すれば標識調査への認識が高まる。

<議題2 鳥類標識データの利用規定>

〔環境省〕環境省に帰属する「鳥類標識データ」は、年月日・種名・足環番号・性・齢・地名・緯度経度・放鳥者名・回収者名となる。

公開に関する基本的な考え方として、年月日・種名・足環番号・性・齢は公開可能。地名・緯度経度の位置情報は希少種の保護に係る場合があるので、一定の制限を設けて一般に公開(緯度経度は記録のある分まで、とすることとなった)。希少種の位置情報は非公開。調査者が論文発表をする等の理由で希望する場合は、関連するデータは基本3年間非公開。

〔検討委員(古南)〕希少種のデータといっても、標識場所の情報で営巣場所が判明してしまうオオタカのような種とその他の種で同じ扱いというのはいささか疑問。猛禽類の巣の情報以外は基本的に公開しても良いのではないか。

〔検討委員(川路)〕その年のデータの一部公開より、バンダーの優先権の切れる3年を待って全データ公開にしたらどうか。その方が利用しやすい。

〔環境省〕HP上で個々のデータを公開したいと考えている。即時性を重視したい。

〔事務局〕ここで個々のデータの公開という環境省の意向がハッキリしたが、細部では調整が必要。今後、規定を決めて関係者間の理解を共通にしないといけない。

<議題3 マニュアルの改訂>

(マニュアル改訂版の素原稿を回覧)

〔事務局〕形はほぼ出来て、用語の統一や内容の再チェック、図表・写真などの整理をしているところ。

〔検討委員(古南)〕写真撮影について何らかのモラルを書いた方が良い。

〔環境省〕死亡鳥を減らすことも重要であるので、捕獲個体の安全確保のための措置について、これまでの知見を生かして、より具体的に書いてほしい。

〔事務局〕死亡鳥の原因として一番無視できないものは他の動物による捕食である。特に調査地に居付いてしま

ったキツネやノイヌなどが厄介である。捕食者を捕獲して遠くへ移動することが有効と考えられるが、鳥獣法等の事務上可能かどうかを確認する必要がある。

〔環境省〕捕獲した捕食者が、特定外来種の場合については、移動や放獣は外来生物法で禁止されている。

<議題4 今後の課題・調査項目>

〔環境省〕予算削減に伴い調査目的の明確化を行うため、調査項目の見直しをしたい。

〔事務局〕既に調査を切り詰められるだけ詰めてしまっているのも、これ以上予算が削減された場合、足環の有料化などバンダーに負担が掛かることも考えられる。

(具体的な調査項目については、環境省と山階鳥類研究所で調整することとなった)

<議題5 その他>

〔検討委員(上田)〕足環を付ける際に羽のサンプル収集を行う等して、人畜共通感染症の基礎調査を色々な種で積み重ねてゆく等、新しい視点を取り入れることも重要。こういうデータ・実物があれば将来役に立つ。環境省としても鳥を含めた日本の自然についての情報を将来にわたって積み重ねて、何か突発的な問題が起こったら直に対応できることが必要であると、もっと国民に伝えることが大切。

〔検討委員(古南)〕米軍移動動物病理学調査所(MAPS)が標識調査に対し研究補助金を出していた時代は、マラリア調査など人畜共通感染症との関連で基礎情報を提供した。また、密猟対策など様々な公益的なことの下支えになっている。この点をもっと評価してほしい。野生動物の感染症の研究体制をきちんと作ることが、突破口にならないか。バンダーがいなくなると日本の自然保護は困る。

〔検討委員(花輪)〕標識調査やモニタリング1000など、環境省事業のかかなりの部分をボランティアが支えている。

〔検討委員(廣居)〕シギチドリ類の東アジア渡りルートでは、アメリカやオーストラリアが力を入れている。これは東南アジアからアメリカに病原菌が運ばれることを懸念して基礎調査として行なっている。国際的にも日本の重要性が高まっている。

〔環境省〕シギチドリ類のバンディングについて重要性は理解した。但し、標識調査の予算が厳しいので、鳥類標識調査以外の枠組みで実施可能か検討したい。